



荒川水系

荒川は奥秩父山地の甲武信ヶ岳（2,475 m）に始まる。ここは富士川、信濃川の分水嶺でもある。

山地に深いV字谷を刻みながら真ノ沢を下り、赤沢と出会う。ここが河川法で管理される一級河川としての荒川起点。沢の水は河川となって川又発電所付近で滝川を、やがて大洞川、中津川、大血川を合わせて秩父盆地に入る。

盆地内では荒川がかつて秩父中・古生層（約5億6,000万～約6,500万年前）や第三紀層（約6,500万～200万年前）をU字に刻んだ河岸段丘の間を北流し、盆地を抜け山地部を抜けて寄居で流路を大きく東に転じ、平野に入る。

寄居から熊谷に至る一帯は、荒川の扇状地帯。かつて荒川は寄居を扇頂とする古い「荒川扇状地(洪積台地)」をつくり、それを浸食して左岸側に柳引台地、右岸側に江南台地を残した。その間を東流する荒川は、その下流の熊谷市大麻生を扇頂にする新しい扇状地「荒川新扇状地」を流れ、熊谷地先の荒川大橋で流路を南東に変える。

そこからは1/1000～1/5000の緩やかな勾配の河川氾濫原（沖積低地）を大宮台地西北縁に沿って南流し、さいたま市地先の古谷本郷で荒川水系最大支川の入間川を合流し、東南東に向きを変えながら岩淵水門に至る。

ここで隅田川を分派した後、流れを南へ転じながら左岸の小菅で綾瀬川と並び、綾瀬川が中川に合流する首都高速中央環状線「かつしかハープ橋」からは中川と並行し、いくつもの橋をくぐって東京湾に注ぐ。

一方荒川の派川・隅田川は、荒川から分かれて間もなく新河岸川を合流し、旧流路そのままに蛇行しながら、まず石神井川を、両国橋手前で神田川を、永代橋手前で日本橋川を合流し、大川端リバーシティのある佃島北端で二股に分かれる。西側が隅田川。佃大橋、勝間橋をくぐり、浜離宮手前で築地川を合流し東京湾に出る。

※山を背に、海に向かって左側が左岸、右側が右岸。

As residents of Metropolitan Tokyo, including Saitama Prefecture, which lies in the basin of the Tone and Ara rivers, our aim is to increase our knowledge of the waters of these two rivers as well as those of the River Ara, which was once a tributary of the Tone.

Although the Ara River is not one of Japan's longest rivers, it is unique because, at its mouth, it runs through the center of the Tokyo megalopolis. Its source is in the Kobushigatake mountains, which are in the western part of Saitama Prefecture. After passing through Saitama Prefecture, it crosses Tokyo and discharges into Tokyo Bay. Some 9.2million people live in its basin, an area of approximately 2,940 km² containing Saitama and Tokyo. The population density of this basin is 3,100 per km² and the properties within it are worth approximately ¥13.8trillion.

